

# 道徳教育地域支援委託事業実施報告書（令和元年度）

## 1 学校の概要

- (1) 学校名 土庄町立土庄小学校  
 (2) 所在地 香川県小豆郡土庄町湊崎甲2080番地1  
 (3) 学年別児童生徒数及び学級数, 教員数 (令和2年1月8日現在)

第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	特別支援学級	児童生徒数計	教員
3学級 80名	3学級 79名	3学級 82名	3学級 87名	3学級 74名	3学級 94名	5学級 19名	515名	35名

## 2 研究主題等

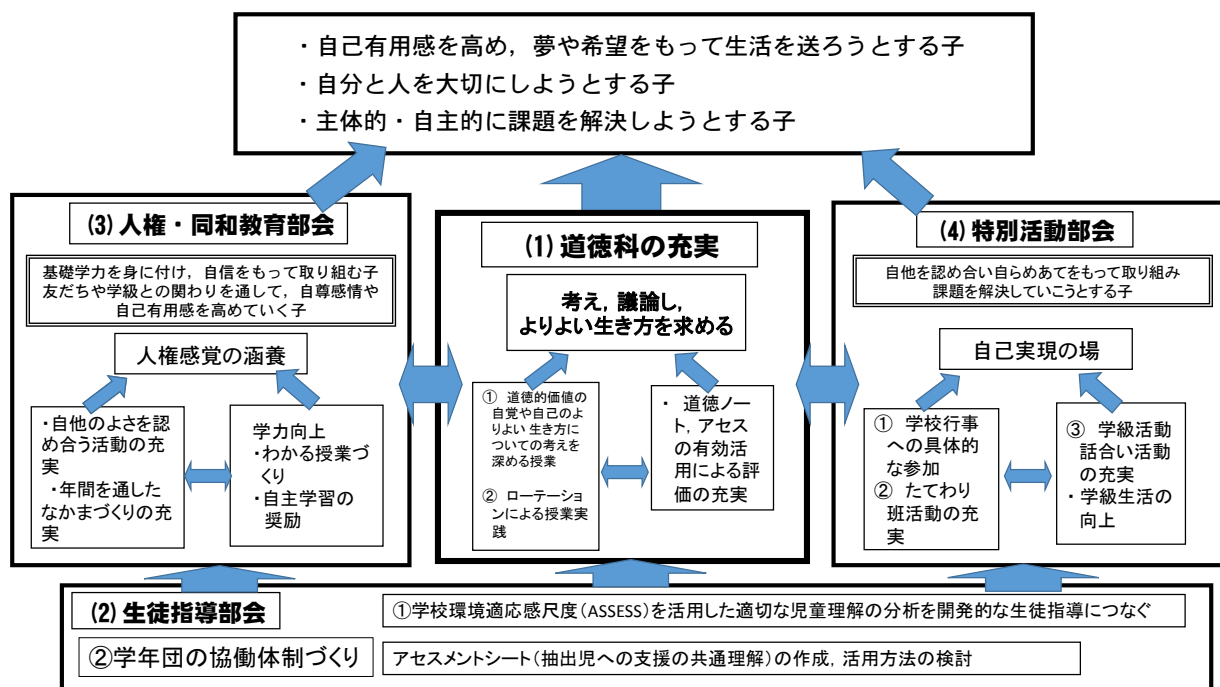
- (1) 研究主題 自己を見つめ、互いを認め合い、よりよく生きようとする子どもの育成  
 —各教科, 特別活動, その他の教育活動と結びつけた道徳教育—

### (2) 研究主題設定の理由

本校では、各教科、特別活動、その他の教育活動との関連をもたせて道徳教育を進めてきた結果、自分のよさや課題を具体的に見つめ、よりよい生き方についての考えを深める子どもが増えてきた。友だちのために自分の役割を果たし、人のために役立つ喜びを感じ始めている。自己有用感についても高まりが見られている。また、互いに認め合い承認し合う場が多く設定されたこともあり、自己肯定感の高まりも少しではあるが表れている。

そこで、本年度は、本校児童のこれらの実態に視点をあて、自分のことが好きで自信がもてるようになってきた児童の自己実現の場を多く設定し、全教育活動と関連をもたせた道徳教育の取組に長期的な見通しをもって研究を継続推進していくことで、自己を見つめ直し、よりよく生きていこうとする児童の育成をめざす。

### (3) 研究の構想



### <学校環境適応感尺度に関する参考文献>

- 石井眞治, 井上弥, 沖林洋平, 栗原慎二, 神山貴弥 編著(2009). 『児童・生徒のための学校環境適応ガイドブック・学校適応の理論と実践』 共同出版
- 栗原慎二・井上弥 編著(2010). 『アセスの使い方・活かし方, 学級全体と児童生徒, 個人のアセスメントソフト』 ほんの森出版

#### (4) 研究内容及び方法

- ① 道徳科の充実をはかる。
  - ア 考え、議論する表現・交流活動
  - イ ローテーション道徳による授業実践
  - ウ 評価の充実につながる道徳ノート、振り返りシート等の活用
- ② 全教育活動を通して豊かな心を育み、自己実現を支援する。
  - ア アセスメントによる見取りを生かした生徒指導
  - イ 人権・同和教育の充実（各学年の共通実践のつながりなど）
  - ウ 特別活動の充実（話し合い活動の指導の重点化、委員会活動、たてわり班活動の活性化等）

### 3 研究実践

#### (1) 道徳科の充実

平成 29・30 年度において本校では以下の点に重点をおいて実践を積み重ねてきた。

- ①各教科、特別活動、その他の教育活動との関連をもたせた道徳授業の単元化
- ②ローテーションによる道徳科の授業
- ③自分の考えを表出できる表現・交流活動
- ④実生活とつなぐ授業の展開
- ⑤評価につながる道徳ノート・振り返り等の有効活用
- ⑥家庭との連携

#### 令和元年度の重点

- I 道徳科において、子どもが考える主体となり、話し合いたい、実践したいと思える授業の展開となるよう工夫することにより、道徳的価値の自覚や自己のよりよい生き方についての考えを深めることをめざす。（考え、議論し、よりよい生き方を求める道徳科）
- II 教職員が「育てたい子ども像」を共有し、協働して道徳科の授業やその他の教育活動にあたることを通してよりよく生きていこうとする子どもの育成をめざす。（ローテーション等による道徳科授業実践）

#### ① 考え、議論し、よりよい生き方を求める道徳科

##### ア 交流活動の充実

##### 〈役割演技での交流活動〉

低学年段階では、何事でも興味をもってやってみようとする児童が多い。また、実際に体を動かしたり、場面の状況を見たりすることが理解の助けとなる発達段階である。そのような実態を生かし、役割演技を取り入れた。

登場人物の1人を教師が演じて場面を可視化し、実際の様子を想像しやすくしたり、見ている子どもたちに意図的な問い返しをして価値について深められるようにしたりした。一番深めたい場面で役割演技を取り入れたことで、児童の興味がわき、演技している児童だけでなく、見ている児童も多面的に楽しく考えることができていた。児童はお互いの多様な考えを知ることができ、話し合いの活性化につながった。また、場面を可視化することで、実際の様子が想像しやすくなり、子どものつぶやきが拾えたり、自分事として考えやすくなったりした。



【1年：役割演技の様子】



【2年：役割演技の様子】

〈考えの可視化による交流の支援〉

考えを交流する際には、考えを視覚化することで、友だちの考えを知ったり、関連価値に気付いたりと多面的に価値に迫ることができる。

低学年では、表情カードを使ったり、心情振り子を用いたりして、自分の気持ちや立場を明確に示すことで、授業者が、価値に気付かせたり、価値を深めたりできる支援につなげた。中学年では、短冊や付箋紙に考えを書き、操作して価値に関わるキーワードを見つけて全体交流につなぎ、価値に迫った。また、マグネットで自分や友だちの立場を明確にすることで交流を深めていった。高学年では、ホワイトボードやカード操作を用いることで、グループで友だちの考えを比較しながら自分の考えを深めたり、考えをまとめたりした。また、意思表示カードを用いて、友だちの考えに対して自分の意見を伝えることで、交流を深めた。



【2年:振り子で児童の立場を確認する】【1年:表情カードで自分の気持ちを確認する】【5年:カードの位置関係で価値に気付かせる】

イ 実生活とつなぐ授業の展開

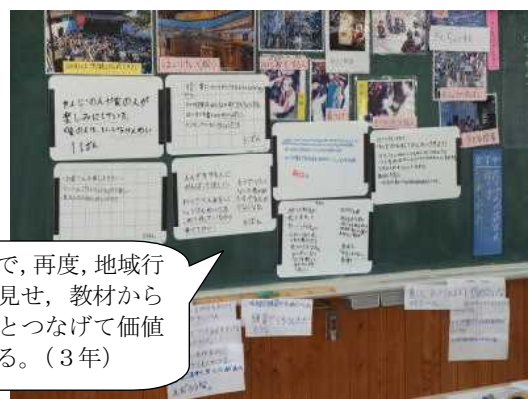
道徳科での学びの実践化のためには、児童が授業の中で教材と実生活をつないで考えられる授業展開の工夫が大切と捉えた。そこで事前読みの感想や学級活動・学校行事などでの様子や発言、振り返りなどの活用目的と方法を明確にして、児童の課題設定を支援したり道徳的価値の理解を深めたりした。

〈実践例〉

学年	目的	いつ	どのように	教材名（価値）
低	生活科のおもちゃまつりで年長児に対して思いやりをもって接する。	終末	手紙を書いて学んだことをふまえて思いを伝える。	「はやとのゴール」 (親切・思いやり) 学研：みんなの道徳
中	地域の歴史や文化を愛する気持ちをもつ。	導入 終末	地域行事に関わる人々の表情や様子から気持ちを考える。	「受けつごう農村歌舞伎」(伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度) 香道研：わたしたちのふるさと香川
	学習のめあてについて具体的な実践意欲を高める。	導入 終末	価値を学んだ後に実際のめあてを修正する。	「レスリングの女王吉田沙保里」 (希望と勇気、努力と強い意志) 学研：みんなの道徳
高	実際の体験とつなげて、主人公の気持ちを理解する。	展開	事前読みの感想から意図的指名をして交流に生かす。	「ブランコ乗りとピエロ」 (相互理解・寛容) 学研：みんなの道徳



導入部分で、1学期のめあてをふり返らせ、どんな自分になりたいかを確認している。(4年)



終末部分で、再度、地域行事の写真を見せ、教材から学んだこととつなげて価値を深めている。(3年)



## ウ 子どもの成長を促す評価をめざして

児童の道徳性に係る成長の様子について評価する際には、児童が自らの成長を実感できるようにすることをめざし、指導案作成の段階で以下の点について明記した。

☆一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させている。	●道徳的な価値の理解を自分自身との関わりの中で深めている。
①判断の根拠や心情を様々な視点からとらえようとしている。 ②自分と違う立場や考え方を理解しようとしている。 ③複数の価値の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を様々な考えようとしている。	①登場人物を自分に置き換えて考えている。 ②自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直している。 ③他者と議論する中で、道徳的価値の理解をさらに深めている。 ④道徳的価値の難しさを自分のこととして考えている。

参考：『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 P 1 0 9 ～ 1 1 2 』

## ② ローテーションによる道徳科授業実践 〈実施により期待できること〉

児 童	教 師
<ul style="list-style-type: none"> <li>○新鮮な気持ちで授業を受けられることで授業に向かう姿勢により影響がある。</li> <li>○複数の教師で教材研究された質の高い道徳科授業を受ける機会が増える。</li> <li>○他学級の教師との人間関係ができ、多くの教師に認められる機会が増える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業時数が量的に確保される。</li> <li>○教材研究の本数が減り、教材研究が深められる。</li> <li>○児童への問い返しや発問が精選されていく。</li> <li>○学年団の教師で相談しながら授業づくりができる。(協働体制)</li> <li>○学級だけではなく学年全体の児童理解が進む。</li> </ul>

### めざす児童の姿

- 自己を見つめ、物事を多面的な視点で深く考える力が育つ。
- 自分の可能性に気づき、自ら成長しようとする意欲や態度が育つ。

### 教育的効果

- 道徳科の評価に対して共通認識をもって行うことができる。
- 児童を多面的に見る技術が向上し、よさを見付ける目で成長を促すことができる。

これまで過去2年間に本校で実施してきたローテーション道徳の成果と課題を生かし、今年度は指導のねらいをより明確にし、学年の実態に応じた効果的な授業実践となるように配慮した。

## 〈実施例1 (令和元年6月・2年生3学級)〉

- 担任だけでなく、複数の教師で同じ子どもにかかわったり教材研究をしたりすることを通して授業を充実させ、道徳的価値にせまる。

担任だけでなく、複数の教師で同じ子どもにかかわったり教材研究をしたりすることで、児童の道徳性の高まり、教職員の協働体制づくりの促進を図ることができる。さらに、道徳と他教科、特別活動などを意図的に組み合わせることで単元を組んだ実践を行うことと合わせて行うとさらに効果的であると考える。実践した。このように学校教育全体で取り組むことは、主体的によりよく生きようとする児童の心を育てるための重要な基盤となるであろう。

回	月/日	2年1組	2年2組	2年3組	見取り等
1	5/31	<b>A</b> 「竹馬と一輪車」 担当：1組担任	<b>D</b> 「メイとケンプ」 担当：学年団付教諭	<b>C</b> 「きれいな羽」 担当：3組担任	<b>B</b> 担当
2	6/5	<b>B</b> 「まいごのすず」 担当：2組担任	<b>C</b> 「きれいな羽」 担当：3組担任	<b>A</b> 「竹馬と一輪車」 担当：1組担任	<b>D</b> 担当
3	6/12	<b>D</b> 「メイとケンプ」 担当：学年団付教諭	<b>A</b> 「竹馬と一輪車」 担当：1組担任	<b>B</b> 「まいごのすず」 担当：2組担任	<b>C</b> 担当
4	6/19	<b>C</b> 「きれいな羽」 担当：3組担任	<b>B</b> 「まいごのすず」 担当：2組担任	<b>D</b> 「メイとケンプ」 担当：学年団付教諭	<b>A</b> 担当

- ・4時間分を**A, B, C, D**の4人の教員でローテーションしながら実施する。
- ・2年生の3学級で実施し、時間が空いた教員は、評価シート等で児童の様子を見取り、有効に活用する。

〈実施例2（令和元年10月・5年生3学級）〉

○教師の個性を生かし、それぞれの教材の価値に応じた手法を用いて道徳的価値にせまる。

第5学年では、ローテーション道徳を取り入れ、個々の授業者が、それぞれの教材や価値に応じた手法で授業研究を深めることで、価値の理解を深め実践意欲の向上に効果的に働くと考えた。

回	月/日	5年1組	5年2組	5年3組
1	9/18	<b>C</b> 「言葉のおくりもの」 担当：3組担任	<b>A</b> 「すれちがい」 担当：1組担任	<b>B</b> 「友のしょう像画」 担当：2組担任
2	9/25	<b>B</b> 「友のしょう像画」 担当：2組担任	<b>C</b> 「言葉のおくりもの」 担当：3組担任	<b>A</b> 「すれちがい」 担当：1組担任
3	10/2	<b>A</b> 「すれちがい」 担当：1組担任	<b>B</b> 「友のしょう像画」 担当：2組担任	<b>C</b> 「言葉のおくりもの」 担当：3組担任

道徳的価値にせまるための手法  
**A** 資料提示の工夫  
**B** カード操作  
**C** 哲学対話

〈実施例3（令和元年6月・4年生3学級）〉

○行事を核として学年団で育てたい子どもの姿を共有し、各教科、特別活動、その他の教育活動との関連をもたせた道徳授業の実践を通して道徳的価値にせまる。

単元計画（全30時間）

SMILE 4年生 ～夢に向かってみんなでチャレンジ～

- 8 目標達成できたかな？（学活） 7月
  - ・ 中間発表会以降の自分や友だちのがんばりを認め合い、めあてを達成できたかどうか確かめる。
- 7 目標達成までどのくらい？～中間発表会～（学活・授業参観） 6月15日
  - ・ 自分や友だちのがんばりを認め合い、運動会以降に立てためあてを達成するための手立てをつかむ。
- 6 レスリングの女王 吉田沙保里 主題名 ねばり強くがんばる A-5 希望と勇気、努力と強い意志（道徳） 6月12日（本時）
  - ・ 目標の達成に向けて努力する過程には、周囲の支えがあることに気付き、強い意志でねばり強く取り組もうとする態度を養う。
- 5 なみだとえがおの「なでしこジャパン」主題名 最高の仲間 A-10 友情、信頼（道徳） 6月
  - ・ 友達のよさを互いに理解することで信頼感を高めることに気付き、友達同士で助け合おうとする態度を養う。
- 4 自分とみんなの成長をたしかめよう！（学活） 6月
  - ・ 4月から現在までの自分や友達のがんばりを認め合い、今後の生活や学習に対する前向きな意欲を高め、新たなめあてをもつ。
- 3 花をさかせた水がめの話 主題名 自分のよさを見つけてのばす A-5 個性の伸長（道徳） 5月
  - ・ 自分のことをよく知り、よいところを伸ばそうとする態度を養う。
- 2 運動会 がんばろう！（学活・体育・行事） 5月
  - ・ 運動会のめあてをもち、意欲的に自分の演技や集団演技をつくりあげていこうとする思いを高める。
- 1 4年生だ！めあてをもってがんばろう！（学活） 4月
  - ・ 進級し、自分や学級のめあてを立てることで、気持ち新たにやりたい自分になっていこうとする意欲を高める。

- 個性の伸長
  - 友情、信頼
  - 希望と勇気、努力と強い意志
- の価値に関連する行事や常時活動

「私はわたし」  
（グループ・エンカウンター・6月下旬）  
自分の個性に誇りをもち、友だちの個性についても尊重しようとする。

運動会  
（道徳の日・5月19日）  
がんばったこと、できるようになったことなどを振り返り、友達や家族に伝える。

運動会練習期間  
（4月中旬～5月18日）  
演技のチームごとによさや改善点を振り返り、練習を通して身に付いてきた力を見出す。

帰りの会（4月～）  
ほめほめタイム  
お互いのよさを認め合う時間を毎日もつ。

～3・5・6は、ローテーション道徳を実施～  
学年始めの1学期にローテーション道徳を行うにあたっての重点

教師：○アセスの見立てと合わせて全学級の児童の様子を知ること、学年団で協働して児童を育てる。  
○大きな行事を核として単元化した実践を行うことで、指導の見通しをもち、協働して指導にあたる。

児童：○学年団の教師を知ること、担任以外の教師ともつながりをもつ。  
○大きな行事での学びを学年・学級のなかまとともに自ら進んで成長につなげ、学年のよいスタートをきる。

## (2) 生徒指導部会の取り組み

### ① アセスの活用について

これまでに引き続き、今年度も学校環境適応感尺度（アセス）を活用し、適切な児童理解や児童のよさを認め生かそうとする教職員の協働体制づくりを推進した。教師の勘だけに頼るのではなく、客観的なデータを用いることにより、児童への多面的な理解がより図られると考える。また、アセスの結果から気になる児童を抽出し、学年団や学校全体で情報を共有することで、多くの目で児童を見守り指導に当たるような協働体制づくりが促されることが期待できる。アセスを通じて検討した指導・支援方針や具体的方策を、教師は普段の授業や学校生活の中で意識し、児童とかがかわるようにしてきた。

今年度は、6月に1回目のアンケートを実施し、その後学年団で見立てや現状また、支援方法について検討した後、アセスメントシートにまとめた。また、各学年のアセスメントシートを持ち寄り、全学年団の代表の教員がそろう生徒指導部会で情報共有することにより、協働的に児童の指導に当たれるようにした。さらに、今年度は、昨年度の実践で見えた効果的な支援方法をまとめたものを教師全体で共有した。これまでの実践の成果を生かし、自己有用感の醸成の場づくりや学習環境づくりの支援に活用できるようにした。

アセスの結果は、現職教育の研究授業でも活用した。授業の事前に普段の児童の行動の様子を座席表にまとめた。そこにアセスの結果も反映させ、児童の気になる点を記入したり、抽出の児童に対する個別の支援を示したりした。授業者にとって見通しをもって授業に臨めることはもちろん、参観者が共通の視点で授業を見取ることに役立った。授業後の討議においても、授業構成や発問、支援等が適切であったか、座席表を活用した見取りが反映された。

<p>生向学 ♪気分がむらがあり、自分の考えをもつのに時間がかかることがある。一人本の頑張りを見つけ賞賛することを繰り返している。</p>	<p>生教向 ♪発想が幼稚である。課題への集中が難しい。あまのじゃくなところがある。一個別に声かけをして考え方を肯定する声かけをする。</p>	<p>♪自分の考えをしっかりともち、友達に伝えることができる。グループで中心になれる。</p>	<p>非 ♪学習内容の理解が難しい。道徳でも心情を考えたり、価値を理解したりするのが難しい。一心情や価値の理解を助ける声かけ。</p>	<p>♪誰と接する。学習いが、道も一生懸命で発言し</p>
<p>♪とても温厚である。自分の考えがもてるが、積極的 に友達に伝えるのは難しい。</p>	<p>♪よく考え、発言 できる。生活とつ なげて考えるこ とができる。グル ープの中心にな れる。</p>	<p>学 ♪落ち着きがない ところがあるが、 授業中は一生懸命 に考えようとして いる。</p>	<p>教 ♪自分の考えをし っかりともち発言 することができる。 生活経験と結び 付けられる。</p>	<p>♪学習 が難しい を継続 難しい。</p>
<p>♪周りの行動を気 にしない面がある。 何事にも一生 懸命に取り組もう とする意欲はあ</p>	<p>♪落ち着きがない。 課題に対する 取り組みが煩雑に なる面があるが、 一生懸命に考える</p>	<p>教 ♪とてもマイペ ースで自分の我を通 そうとする。発言 は多く、つがやき が授業に活気を与</p>	<p>♪理論的な考え 方ができる。自分 の考えを積極的に 発言する場面は多 くない。</p>	<p>♪授業 多い。 心が育 グルー ようと</p>

【座席表】

### ② 情報共有のための協働体制づくりについて

基本的なきまりや善悪の判断などの規範意識を育てていく上で、生徒指導が果たす役割は大きい。そして、学校全体として生徒指導が機能していくには、全教員が課題を把握し、足並みをそろえて指導に当たる必要がある。生徒指導上の情報を共有できる場が設定され、協働的に指導内容や方法を協議し、実践していくような体制づくりが求められる。

本校では、今年度より、生徒指導の情報交換を現職教育の一つの部会である生徒指導部会の中で行うようにした。生徒指導部会は各学年団から1名ずつ、若年の教員を中心に組織している。学校全体の現状や課題の把握、問題解決のための指導法の協議等に若年の教員を巻きこんでいくことで、教員の指導力のボトムアップを図るねらいも持っている。部会に際しては、共有ファイルに各学年団で気になることを事前にデータ入力しておき、それをもとに情報共有や指導内容の協議を行っている。部会で話し合われた内容は、各学年団会で全教員が共有できるようにしている。



【部会の様子】



### (3) 人権・同和教育部会の取り組み

基礎学力を身に付け、自信をもって取り組む子や友だちや学級との関わりを通して、自尊感情や自己有用感を高めていく子の育成を目指して、本部会では、①自他のよさを認め合う活動の充実や年間を通したなかまづくりの充実、②学力向上のためのわかる授業づくりや自主学習の奨励という視点から様々な取り組みを行ってきた。

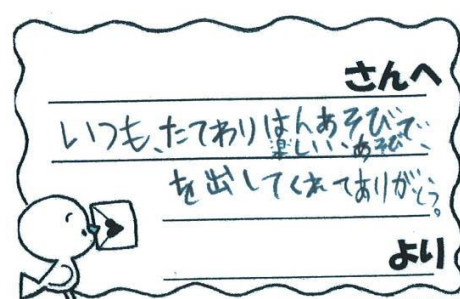
#### ① 自他のよさを認め合う活動の充実や年間を通したなかまづくりの充実

##### ア 自他のよさを認め合う活動の充実

自分のよさや友だちのよさを見つけようとする態度を養うことをねらいとする。友だちのよいところを見つけて自分の言葉で相手に伝える意識をもたせる。また、友だちに自分のよさを教えてもらうことで、自分に自信がもて自尊感情や自己有用感を高めることにつながると思う。

##### ありがとう・すごいねカード

「ありがとう・すごいねカード」は、学校に笑顔を増やすために、学級や学年の中で互いのよさを見つけカードに書く活動である。見つけたよさを文字にすることで、より相手にも伝わり、それを校内に掲示したり放送で紹介したりすることで、自尊感情の向上につながると思う。子どもたちの中には、学級や学年を超えて異学年の人や先生方にもカードを書く子もいた。



【たてわり班が同じ6年生に書いたカード】

##### 学級内での取り組み

学年や学級の中でいいところを見つけをする活動も行っている。学級のなかでは、毎日の帰りの会で「きらきらさん紹介」として、その日の日直のがんばったことやすごいところを伝える時間をとっている学級もある。伝えてもらった児童は恥ずかしそうではあるが、笑顔も見られ、学級が温かい雰囲気になっている。

##### イ 年間を通したなかまづくりの充実

年間を通してなかまづくりの活動を行うことで、児童が学級で安心して過ごすことができるようになると思う。学年集会や学級の時間に、それぞれの実態に応じたなかまづくりを行った。

#### ② 学力向上のための取り組み

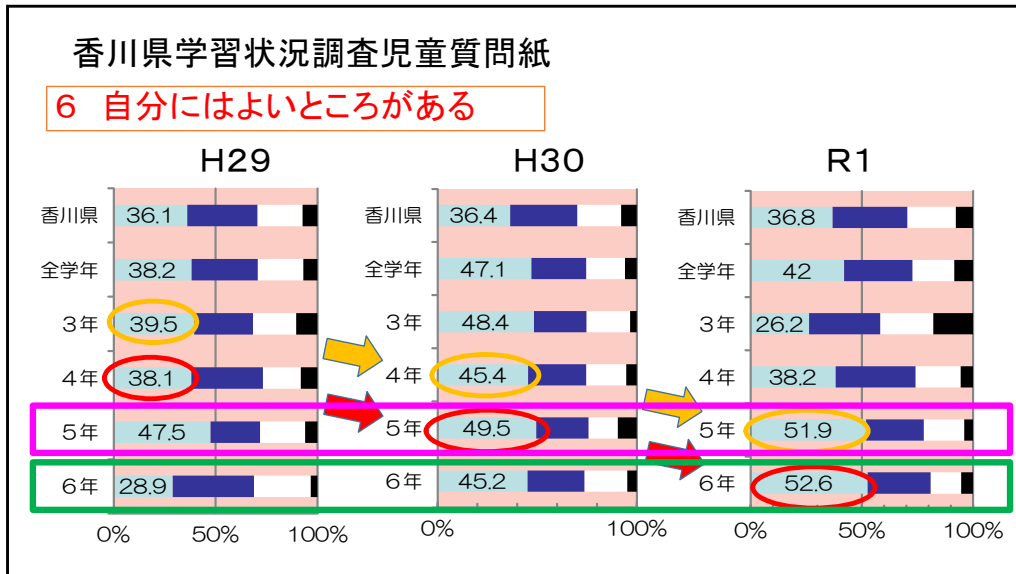
##### ア 自主学習の奨励

2学期から毎月1日を「自主学習がんばりデー」と設定し、自主学習を進んで行う児童の育成を目指した。学年ごとにその月のめあてを設定し、自主学習に取り組むようにした。勉強したノートを友だちと互いに見て、めあて通りにできているか確認した。また、学級の中で参考となるノートを掲示していた。友だちのノートを見ることで、ノートの使い方の参考にもなり、自主学習をがんばろうとする児童の姿が見られた。



4 研究の成果と課題

(1) 香川県学習状況調査質問紙から



県学習状況調査の質問紙「自分にはよいところがある」という設問に関して、「あてはまる」と答えた児童を平成29年度から3年間比較すると、令和元年度の5年生は、平成29年度3年生の時に39.5%、平成30年度4年生の時は45.4%、令和元年度は51.9%と上昇している。また令和元年度の6年生に関しても、学年が上がるにつれ上昇しており、学年が上がるにつれて「自分にはよいところがある」と自信をもってこたえることができる児童が増えてきていることが見てとれる。

平成29年度の5年生、平成30年度の5年生、令和元年度の5年生、という見方で比較しても、割合が上昇しており、6年生に関しても同じことが言える。これは、本校が3年間取り組んできた、学校全体で取り組む道徳教育の充実による成果であり、全教職員で児童を育てる協働体制づくりの推進によるサポート体制の確立が、児童の自尊感情を育むことに大きな成果があったと言える。特に、全校的に力を入れてきた、学級活動、委員会活動、たてわり班活動などでの児童の活躍の場づくりが、高学年段階の児童に顕著な効果があったと言える。

(2) 全校生のアセス結果から

＜令和元年度＞					
抽出児全体	事前		事後		t値
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	
生活満足感	47.33	15.11	49.91	14.15	1.77
教師サポート	50.64	15.70	54.26	17.18	2.12*
友人サポート	47.28	14.13	52.78	17.58	3.05**
向社会的スキル	48.90	14.21	50.99	16.85	1.34
非侵害的關係	49.16	14.10	50.18	12.95	0.81
学習的適応	47.16	14.27	47.63	13.91	0.38
対人的適応	48.99	9.35	52.05	10.64	2.91*

\*\*p<.01 \*p<.05 n=88

抽出児におけるアセスの下位尺度得点の変化を調べた。t検定を行ったところ、教師サポート、友人サポート、対人的適応について、事前から事後にかけて有意に高まった。

アセス結果からは、事前から事後で、「友人サポート」、「教師サポート」が有意に高まっていることが見てとれる。これは、授業の中で、抽出児の活躍の場づくりや交流支援を教師が積極的に行ったことにより、「友人との良好な関係性」や「抽出児と教師の良好な関係性」が高まったと考えられる。

#### (4) 特別活動部会

特別活動部会では、自他を認め合い、自らめあてをもって取り組み課題を解決していこうとする児童の育成を目指し、各活動において取り組んできた。

##### ① 学校行事への主体的な参加

###### <児童集会の開催>

総務委員会児童が主体となって集会を行うことで、今、児童が全校生で考えたいことについて話し合うことができた。フロアにいる児童も積極的に手を挙げ発言することができ、課題を解決しようとする姿が見られた。



【いじめについての児童集会】

###### <学校行事におけるめあての設定>

道徳の日のワークシートを利用したり、ともだちノートに記入したりして、各活動において個々がめあてをもって取り組んだ。道徳の日のワークシートであれば、保護者も目にするため、めあてが達成された場合は賞賛してもらうことができ、意欲をもって取り組む手立てとなった。

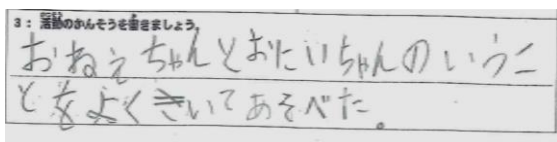
##### ② たてわり班活動の充実

###### <たてわり班のネーミング決定>

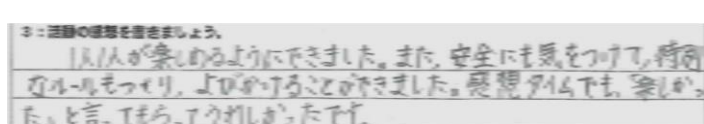
たてわり班活動に親しみをもってもらおう、積極的に関わられるようにしようとの思いから、たてわり班のネーミングを総務委員会主体で募集した。それぞれが考え、「にこにこなかよし班」に決まり、思い入れのある名前になった。

###### <振り返りの場の工夫>

たてわり班活動の振り返りを各学級に帰ってから行うことで、学年に合った視点を与え振り返ることができた。それぞれの学年団で年間のめあてが決まっており、そのめあてにそった活動の振り返りができてきた。



【1年生の振り返り】



【6年生の振り返り】

1年生は、上学年の言うことを聞きながら、異学年の交流ができたこと、6年生は、異学年集団のリーダーとして全体に気を配りながら活動できるようにしていたことが振り返りから分かる。

##### ③ 学級活動における話し合い活動の充実

###### <単元を組んで道徳科や各教科との関連を図る>

行事等では、道徳科や学校生活全般と関連を図りながら学習を進めていくことで、効果的に学びが深まり、話し合い活動も活発に行うことができた。

###### <学級生活の向上>

毎月ごとの生活目標に関する学級の話し合いや学級で考えたいことについて積極的に話し合い活動を行った。話し合いで決まったことは絶対を守ることを約束し、学級で共通のめあてをもって活動することで、学級でよくなっていこうとする意欲が見られるようになってきた。

(3) 成果

考え、議論し、よりよい  
生き方を求める道徳科

教師

- 単元化するには、ねらう道徳的価値がよりよく高まっていくようにそれぞれの教材を配列することができた。
- 研究討議では児童の意見の見取り方や生かし方を討議し、教師の授業技術や児童理解の力が向上してきた。
- アセス結果から見出した児童への支援方法を授業の中で活用し、道徳的価値にせまることができた。

児童

- 子どもの発達段階や実態をふまえた交流の方法や価値へのアプローチの仕方を工夫することで、児童の考えを可視化し、対話や議論につなげることができた。それにより道徳的価値の深まりが見られた。
- 全学年において、道徳科での学びを振り返ることができる掲示物を作成したことで、実践化への意欲が高まった。

ローテーション等により  
教職員が協働して行う道徳科  
  
協働して教育活動にあたる

教師

- 担任学級の児童の様子、道徳科の指導方法についての情報交換が活発に行われ、教材研究の充実・授業技術の向上によって質の高い授業が実現できた。
- アセスの結果を全教職員で共有することで、多くの目で課題のある児童への支援や指導にあたることができた。

児童

- たてわり班活動では学年の発達段階に応じたねらいを全学年の教師が共通理解して指導にあたることができ、児童が社会性を身に付けていく上で有効であった。
- 学級活動や委員会活動等で自分たちの生活上の課題を解決したり願いを出し合いかなえていく機会を増やすことで、問題解決能力や自己有用感の高まりが見られた。

(4) 課題

道徳科の授業展開の工夫  
  
児童が自己実現できる場の  
さらなる充実

- ・学んだ道徳的価値を実践に生かすためのさらなる工夫を重ねる。
- ・児童の主体性をより一層生かすために、教師側のサポート体制を見直し、整えていく。
- ・時程の見直しなどを行い、生徒指導部会等の時間を十分に確保するための工夫が必要である。